

## 1 開 会

## 2 教育長挨拶

## 3 議 事

### (1) 中長期的な視点に立った宇陀市の小中学校の在り方について

#### ○教職員を代表する委員からの報告

- ・現状維持という意見も少数あったものの、小学校は通学の負担などを考えて、少なくとも4校、中学校は社会に出る前に集団生活を経験させる必要があるので2校という意見が多かった。また、特色のある教育の例として、義務教育学校や小中一貫校、学校選択制も検討してはどうかという意見があった。

#### ○PTA を代表する委員からの報告

- ・不登校や発達障害など特性をもった子どもをサポートするような小規模特認校や小中学校の教員が9年間継続して子どもを育てる小中一貫校のような特色のある学校が市内に1校でもあればよい。
- ・学校は地域コミュニティの核なので各地域にあった方がよいが、中学校は社会に出る前に集団生活の経験を積むためにも2校程度が適切。保護者は、学力向上と同じくらい協調性や社会性、コミュニケーション能力を子どもに求めている。
- ・幼稚園では6~7割が統合に賛成。市全体で2校程度にして、学習や部活動を大人数で刺激し合いながら高め、統合により浮いた財源をまちづくりや福祉などに充てた方がよい。一方で、特に榛原西小学校では、65%を超える保護者から現状を維持し、地域に根差した教育を進めてほしいという意見もある。
- ・5月13日に室生小学校では協議会を立ち上げ議論している。地域の活性化、移住者受入れの視点から4地域に小中各1校は残すべき。室生小中学校は隣接しているので、小中一貫校という少数意見もあった。

#### ○地域住民を代表する委員からの報告

- ・4地域に学校を維持する一方で移住対策についてももう少し考えてほしい。
- ・小中学校とも大宇陀と菟田野で各1校程度が適当だという意見を聞いている。
- ・地域と学校の連携が希薄で、体育協会が運動会を行うくらい。住民生活の中心が学校という感覚が薄く、今後、連携を強化する必要がある。
- ・過疎化を加速させる懸念から現状維持という意見がある。自治会よりも、保護者や児童の意見を尊重してほしいという意見も上がっている。

#### ○意見交換

- ・宇陀市として合併したのに旧4地域にこだわりすぎ。自分の子育ての経験から中学校は2校で、コミュニケーション能力を育成して欲しい。学校が地域コミュニティの核になっているという意見があるが、実際に地域住民はこれまでどの程度学校に関わってきたのか。
- ・スクールバスで1時間もあれば、市内どこへでも通えるので、いっその事、市全体で一つの小学校と一つの中学校にして、学年毎に各地域の校舎で学ぶくらいの発想をもって市全体で考えることが大切。
- ・合併はしたが、地域性が尊重され連帯感がもてていないと感じる。この機会にみんなの宇陀市という感覚

を育てた方がよい。

#### ○教育委員会の考え方(教育長)

- ・適正化の要素の一つとして議論してきた部活動は、来年度から段階的に地域に移行し、最終的には学校教育から切り離される国の動きがあるので、今後、適正化の重要な要素とならないであろう。
- ・適正化とは、学校統合だけではなく、小規模校として存続させることも適正化である。ただし、小規模校として存続させる場合は、メリットを生かし、デメリットを克服することが求められている。その具体的な手立てが出てきて初めて協議の場に乘せることができる。
- ・全国の学校適正化の例として、統合している学校は行政のトップダウンで進んでいる。特色のある教育で成功している小規模校は、ボトムアップで進んでいる。だから、行政ではなく、地域や保護者の目で各学校のメリット・デメリットを洗い出し、デメリットを克服する手立てを考えていただきたい。
- ・学校がなくなったら地域が廃れるというのは子どもの視点に立っていない。ここで言うメリット・デメリットはあくまでも子どもの教育条件の改善の視点に立ったメリット・デメリットである。

#### ○まとめ(委員長)

- ・市の人口については見通せない部分は当然あるが、最終ラインは持っておきながら足元を固めていく必要がある。また、地元愛に溢れることは大事だが宇陀市として見ることも大事である。様々な視点がある中で議論を深めていくために、自分ごととして各学校のメリット・デメリットをより具体的にシミュレーションすることが求められている。委員の皆さん自身でも情報を収集するとともに、事務局にも請求し、目指すべき学校の姿が説得力を持ってくれば、光が見えてくるのではないかと。

#### (2) 「宇陀市学校適正化基本方針(案)」について

- ・作成に当たっては、今後、宇陀市の学校適正化を検討する上で必要な情報と基本的な考え方について、図表等を用いて簡潔に表すことを意識した。
- ・「1はじめに」では、今回、宇陀市の学校適正化を検討することになった背景など、「2宇陀市の児童生徒数の推移」から「7学校施設の状況」までは、今後、学校適正化を検討するに当たって必要な情報、「8学校適正化の基本的な考え方」で、宇陀市の学校適正化の基本的な考え方について3点にまとめて示した。

#### (3) その他

学校適正化の具体的なことを最終的に決定するのは市である。本推進委員会においては、市が具体的な計画を策定するための基本的な考え方を答申として示していただく。ここで基本となる考えは、子どもの教育環境の充実、つまり、保護者が自分の子どもを通わせたいと思える学校づくりであることを改めて共有していただきたい。

#### 4 連絡事項

- ・次回の第4回宇陀市学校適正化推進委員会は8月26日(金)18時から宇陀市役所大会議室で開催予定。審議内容は、①子どもが学ぶ上での各学校のメリット・デメリットの洗い出し。②デメリット解消のために、今の学校でできること、地域でできること、市全体でできること。以上の2点について。

#### 5 閉 会